

研修医会報 NO. 321 2009.1.22(木)

第107回沖縄県医師会医学会総会

1月17日(土) シンポジウム「沖縄県における初期臨床研修から後期(専門)研修」

シンポジスト	演題
仲程正哲	群星沖縄より

1月18日(日) 一般演題発表

演者	演題
1、西銘圭蔵	医療紛争の問題分析と今後の課題
2、清水啓史	動眼神経麻痺を呈し、少量のクモ膜下出血を伴った脳動脈瘤の1例
3、林 韻欣	診断に苦慮した脳幹型高血圧性脳症を呈した血液透析患者の1例
4、仲宗根 卓	成人エンテロウイルス性髄膜炎の1例
5、澤紙秀太	梅酢が誘引と考えられる食道粘膜剥離をきたした天疱瘡合併全身性エリテマトーデスの1例
6、石井隆弘	腹膜悪性中皮腫の1例
7、金城 仁	軽症破傷風の2例
8、与儀梨香	当院における成人百日咳患者の調査報告 第2報
9、椿本真穂	心肺停止後、迅速な対応により後遺症なく社会復帰した1例
10、佐久田豊	当院のタコツボ心筋障症症例の検討と今後の対応

県医学会について

2年目研修医 椿本真穂

去る2009年1月17日、県医学会で初の発表をしてきました。

準備段階では発表症例の主治医であった伊良波禎先生に付きまとい、循環器カンファという普段は足を踏み入れられない聖域で緊張しながらの予行演習を済ませ、私のガラスのようだった心臓はいつしか毛が生えるまでになり、当日を迎えました。

いざ発表!となると、さすがに緊張してきて生えかけていた心臓の毛も秋の枯葉のごとく散りゆき、どきどきして頭が真っ白になりましたが、なんとびっくりしたことに数時間前までオウムのように繰り返していた発表内容が勝手に口から出てきました。不思議体験です。

心と頭とは裏腹になんとか口だけは動き続けてくれて最後まで話すことが出来ました。

ほっと一息つく間もなく、聴いてくださった先生からの質問が。

口しかまともに働いていない状態の私は質問の意味すらわからず、伊良波先生を見つめてスルーパス。

お洒落なジャケットに身を包んだ伊良波先生が鮮やかにスマートに質問に答えて下さいました。まさにファンタジスタです。有難うございました!!

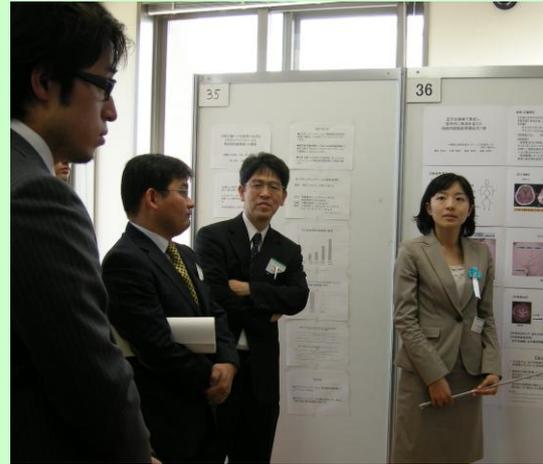
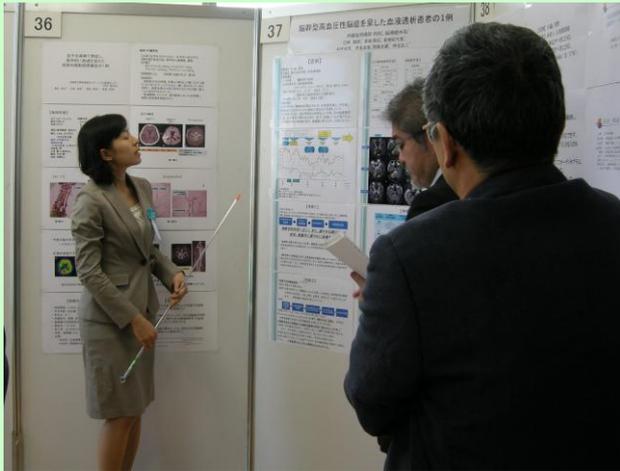
伊良波先生をはじめお世話になった先生方、本当に本当に有難うございました!!!!



元日から手術という脳外科研修で幕をあけた2009年。幸い、昨年うちに大方スライドの準備ができていたので、数日前に資料を読みなおして、レイアウトをあれこれ試行錯誤することができ、自分なりに納得のいく仕上がりとなりました。当日も、早めに回診を終えてゆったりと向かおうと思っていたところ、緊急手術が必要な患者さんがおり、結局時間間近になってしまいました。動悸も治まらないなか、そそくさとポスター展示し、息を整える間もなく発表が開始されました。

自分の番が近づくにつれ、新たな動悸が出現しましたが、一応練習どおり発表することができました。ある程度予想された質問も飛び交い、「待ってました！」とばかりに答えようとしたところ、会場の別の先生が対応し、私が出る幕はほとんどなく、口をはさもうにも第3者間で議論され、何ともあっけなく出番を終えました。

自分が思っていることをそのとおりに人に伝えることの難しさ、人の話を聞くことの大切さを感じたデビュー戦でした。



県医学会発表と那覇民主診療所研修

あけましておめでとうございます！

先日、沖縄県医学会で「脳動脈瘤」をテーマに発表してきました。

当日まで伊泊のつつあんに手取り足取り How to 学会発表を教えてもらっていましたが、当日の朝になって、脳外科の緊急オペが決まってしまう、本番は脳外科医の群れに一人放り込まれることになりました。同じ境遇の仲宗根先生とオロオロしながら会場に向かいました。本番は舌が回らず、タイトルを読むのにも苦労しました。が何とか滞りなく終えることができました。伊泊先生どうも有難うございました。

ところで1月は那覇民主診療所に行ってきました。Dr.嘉陽は穏やかな中にも信念が感じられ、すごいなあと思いました。

また、スタッフのほとんどがお母さんということもあって終始温かい雰囲気でした。研修できました。民診のみなさんどうも有難うございました。

